

周恩来・池田大作会見の今日的意義 ——池田大作の価値人生

賈 蕙 萱

私の本日のテーマは、「池田大作先生はいかに人生最大の価値を創造したのか」であります。こちらは、周恩来総理と池田大作先生が一期一会の会見を行われた際の写真です。右側の写真は、北京大学の季羨林副学長との対談集です。こちらは池田大作先生とお会いした際の私の写真です。また、池田先生が私どもの研究を励ますために書いてくださった漢詩もご紹介します。

尊敬する皆様方、研究者の皆様、ご在席の皆様、こんにちは。皆様ご存知の通り、周恩来総理と池田大作先生は1974年12月5日に一期一会の会見を行われました。

そして、その会見は私たちに多くの励ましを与え、研究すべき内容に満ちています。

私が非常に喜ばしく思うのは、すでにあの世において、お二方が再びお目にかかっているだろうということです。そして、再び交流できることを、お二方とも非常に嬉しく思っているのではないのでしょうか。さらに、平和と発展のために、交流を一層深めてほしいという励ましを、私たちに贈っておられるに違いありません。

今回のシンポジウムのテーマは、まさに時宜を得たものであります。世界的な規模で、「平和と発展」について、人類は真剣に考えなければなりません。現在、世界各地で戦争、対立、紛争、暴力といった不協和音の要素が複雑に絡み合い、極めて危険な状況を招いております。そのような意味において、昨日は多くの卓越した学者の皆様が素晴らしい発表をされ、私自身もそこから多くの学びを得ることができました。今回、私もまた別の角度から「平和と発展」についての考えを提起するとともに、昨年11月15日にご逝去された池田大作先生を偲びたいと思います。池田先生は傑出した平和主義者であり、さまざまな分野において、人類社会の平和と発展のために多大な尽力をされました。

中国には「蓋棺論定」という言葉があります。これは、人が亡くなった後に、その人に対する

Jia Huixuan (北京大学国際関係学院教授)

本稿は周恩来・池田大作会見50周年記念シンポジウム(2024年11月30日～12月1日、於・創価大学)の全体会2「周恩来・池田大作会見の今日的意義」における基調講演に加筆修正を施したものである。

最終的な評価を下すことができるという意味です。流星のごとき名士である池田大作先生について、短い時間の中で論じることは非常に困難ではありますが、同時に極めて意義が深いことでもあります。ご逝去された後もなお、多くの方々から慕われ続けている池田先生が、いかにして人生最大の価値を創造されたのかについての資料は、決して多いとは言えません。しかしながら、その業績は非常に多大なものであり、研究すべき価値があると考えています。こちらの写真は、池田先生ご本人のお姿です。こちらは、1968年に中日国交正常化提言をされた際の情景であります。

まず池田先生は「初心を忘れずに貫いてこられた」という点が挙げられます。「初心を忘れない」とは創価学会の究極の目標を忘れないということを指しています。すなわち、人生で最大の価値を創造し、社会に最大の幸福をもたらすことです。池田先生が実現できたのには様々な要素がありますが、最も重要なのは、池田先生が「人間革命」という非常に優れた理論を深く理解されていたからであります。皆さまもご存知のように、「人間革命」という言葉は、東京大学の南原繁総長によって提唱されたものです。南原繁総長は、「人間革命とは、人生観を確立することを目的とし、それを実現しようと努力することである。人間革命は、目先の現世のみを目標とするのではなく、永遠の生命観に目を向け、確固として揺るぎない生命観を確立することである」と述べています。

池田先生の恩師であり、創価学会第二代会長であった戸田城聖先生は、この南原総長の考え方が、創価学会の発展目標と合致していると考え、「人間革命」という理念を受け入れ、実践へと移しました。池田先生は恩師の思想を深く尊敬し、1960年に第三代会長に就任して以来、「師弟不二」の精神を貫き、「人間革命」を創価学会の指針として掲げ、学会全体において広く提唱し、実践してきました。

池田先生はしばしば、「自分が変わらなければ他人を変えることはできない」と述べられました。池田先生は自身の修練、変革から始めると同時に、創価学会の会員に対しても「人間革命」の理論で自身を変革するよう導いてこられました。そして、自身の歩みと会員を指導しながら進めてきた変革の過程をありのままに記録し続けました。それが小説『人間革命』全12巻及び『新・人間革命』全30巻、合計43冊にも及ぶ壮大な作品です。これが池田先生の代表作となっています。多忙を極める池田先生が、自らの思想や行動、その過程を粘り強く書き続けると同時に、講演集、詩集、写真集など、他の著作も数多く執筆し、百点以上に及びます。その並々ならぬ努力と苦闘は想像に難くなく、常人には到底成し得ないものです。すべては、人生の最大価値を創造するために、昼夜を分かたず続けられた営みでした。

こちらは、恩師である戸田先生と池田先生の写真です。次に、「仏法の導きと恩師の教え」に

ついてお話しします。創価学会は日蓮仏法を信奉しています。日蓮大聖人は日本の仏教、日蓮宗の開祖であり、この仏法は、積極的に社会に関わる生き方を重視しています。現世に生きる人々が直面する問題を解決することを目的としており、世間の苦しみに目を向けず、深山幽谷にこもって修行するような消極的な仏法とは一線を画しています。日蓮仏法は、自身と他者の幸福が密接に結びついていると捉え、他者や社会の幸福のために努力することが人生の真の意味を持つと教えています。また、その教義は、すべての人が無限の可能性を備えており、人生の様々な苦難を乗り越え、価値ある人生を生きることができると説いています。そして、社会、さらには人類全体の幸福のために尽くすことができると示しています。

日蓮大聖人は『妙法蓮華経』（法華経）を尊重されました。法華経は仏典の王と称され、民衆を目覚めさせ、現世において行動を促す教典であり、すべての諸仏は法華経から生まれたとされています。そのため、創価学会の会員は、その題目である「南無妙法蓮華経」を唱えます。「南無」とは帰依することを意味し、「妙法」とは深遠かつ精妙な仏を意味します。すなわち、「南無妙法蓮華経」とは、「深遠にして精妙なる法華経に帰依する」という意味です。また会員は、『法華経』の核心部分である「方便品」「寿量品」も読誦しています。池田先生は、『法華経』について深い研究と理解を有し、人々が貧富の差にかかわらず全て成仏することができること、全ての衆生には仏性があり、その仏性はあらゆる生命に存在していることを説いてこられました。こうした教えは、人々に将来への希望と努力の方向性を明確に示し、自信を深める力を持っています。池田先生の指導に多くの人々が共鳴し、その流れの中で、創価学会は着実に発展し、拡大してきました。

「規則がなければ秩序は成り立たない」と言われるように、創価学会には独自の会憲、学会の憲法があります。学会は組織運営をより充実させるため、2017年11月18日に新しい会憲を制定しました。新会憲においては、学会の発展の方向性がより明確に示され、創価学会三代会長の功績が正式に位置づけられています。特に池田先生が仏法史上、類い稀な指導者として高く評価され、師弟不二の精神で世界に広宣流布した偉業が強調されています。

ここで、新会憲に記された池田先生に関する部分を皆さんと共有したいと思います。

「池田大作先生は、戸田先生の不二の弟子として、広宣流布の指揮をとることを宣言され、怒濤の前進を開始された。（中略）牧口先生と戸田先生の御構想をすべて実現されて、大聖人の仏法の理念を基調とした平和・文化・教育の運動を多角的かつ広汎に展開し、社会のあらゆる分野に一大潮流を起こしました」。

「会長就任直後から、全世界を駆け巡り、妙法の種を蒔き、人材を育てられて、世界広宣流布の礎を築かれ、1975年1月26日には、世界各国・地域の団体からなる創価学会の国際的機構として創価学会インタナショナル（SGI）を設立された。それとともに、世界においても仏法の理念を基調として、識者との対談、大学での講演、平和提言などにより、人類普遍のヒューマニ

ズムの哲学を探求され、平和のための善の連帯を築かれた」。

現在、創価学会は世界の五大陸に及ぶ192の国と地域に広がり、会員数は300万人に達しています。池田先生は世界の有識者との対話を重ね、世界各地の大学、研究機関で32回にわたり演説を行い、1983年からは毎年、平和提言を発表されるなど、人類共通の人道主義哲学を探求し、平和を目標とする行動の連帯を築いてこられました。この写真は池田先生が創価学会インターナショナルを創設された際の写真であります。

新会憲では、また、「『三代会長』の敬称は、『先生』とする」、「この会は、『三代会長』を広宣流布の永遠の師匠と仰ぐ」と明記され、特に池田先生の功績が高く評価されています。

さらに池田先生は、中日友好についても、たびたび「牧口初代会長と戸田第二代会長は、生前に一貫して日中友好を願っていた」、「私にとって、中国との平和友好とは、先師、恩師から受け継いだ信念であり、師たちが示してくださった道である」と語っておられました。中日友好はアジアのみならず、世界の平和と発展の礎です。中日関係がいかなる状況であっても、池田先生と先生が率いる創価学会の友人の皆様による友好の姿を見ることができます。その結果、中国において多くの金の橋が架けられてきました。これはまことに尊いことでもあります。

次に、「池田先生の仕事に取り組む姿は非常に人間性に富んでいた」という点について述べます。人生の価値を創造し、恩師の構想を実現するために、池田先生は少なくとも5つの方法を実践されました。これは私が研究を通してまさにそのように感じたところでもあります。きわめて細かでありながら自在に実行され、人の心を動かす点において非常に卓越した成果を上げています。その5つの方法とは、「人の心を耕すこと」、「人の士気を鼓舞すること」、「人の知恵を引き出すこと」、「人の信仰を強めること」、「人の心を動かす言葉を用いること」です。

詳細に説明することはできませんので、ここで代表的なエピソードを紹介します。

1965年3月22日、日本の宮城県仙台市で地区部長大会が開催されました。池田先生は、一人一人との出会いを非常に大切にされ、会員の声や悩みに耳を傾けられました。大会終了後、池田先生は、参加者600人全てと2時間かけて握手をしました。そのために手は赤くはれ、筆を握ることができないほどの痛みだったそうです。その後、幹部から、握手ではなく記念撮影に変更することが提案され、1965年からの8年3ヶ月の間に、71万8,550人と記念撮影をされています。このことから、池田先生が一人一人を励ますために全身全霊を尽くされていたことがわかります。まことに感動的な事実であります。

また1966年、創価学会の一人の女子大学生がアルゼンチンに留学することを知り、現地でお世話になる方々に渡せるよう、プレゼントを用意されました。さらに現地の創価学会の情報と連絡先を調べ、彼女が安心して生活できるよう、事前に配慮されたそうです。加えて、一人娘であった彼女の高齢の両親に対しても、色紙に「安穩」と揮毫して贈り、安心して留学に臨めるよう

心を配られました。それだけでなく、彼女がアルゼンチンへ出発する当日には、2人の女性会員に神戸港までの見送りを依頼されたといえます。このように、常に一人一人に誠実に接する池田先生の姿勢には、心から感銘を受けずにはられません。池田先生はかつて、「他者に奉仕することこそ、自らの価値を実現する最良の道である」と述べています。

池田先生は、力強く、かつきわめて包容力に富んだ講演や、詩、揮毫などを通して、多くの方を励ましてこられました。そこには、人を引きつける力があり、人格的魅力に溢れています。いくつかここで紹介したいと思います。

「前進、前進、また前進」、「対話こそ、平和への王道であります」、「自信を持つと、無限の可能性が広がる」、「他人を大切にすることは、自分自身を大切にすることである」。こうした一つ一つの言葉が、人々の心を強く打ち、深い感動を与えてきました。

次に、香峯子夫人の献身的な支援についても紹介します。「成功する男性の背後には、賢明な妻の支えがある」と言われますが、この言葉は、まさに池田先生ご夫妻にふさわしいものです。池田先生と白木香峯子女史は、約1年間にわたる自由恋愛を経て、1952年5月3日に結婚されました。その後、香峯子夫人は7つの役割を兼任されました。看護師、栄養士、妻、母、秘書、そして財務大臣、さらに創価学会婦人部の中核のメンバーとしての役割です。財務大臣には、色々なエピソードがあるのですが、創価学会のサポートのために、池田先生が香峯子夫人の同意を得ずに、お金を使われたこともあったそうです。このように、創価学会の婦人部の立場も含め、7つの役割を同時に担っておられました。その多忙な日々にあって、非常にしなやかで、かつ良妻賢母であったことがうかがえます。池田先生は香峯子夫人に支えられてこのように温かい家庭を築いてこられました。夫人が、池田先生が人生の最大の価値を創造するために献身的に支援されてきたことは明らかです。こちらの写真は、皆様もよくご覧になっていると思いますが、香峯子夫人との本当に素敵な一枚です。

香峯子夫人に触れた機会に、私が夫人から直接伺った池田先生の人生に関する大変重要な内容についてお話ししたいと思います。2018年9月、私は創価大学で研修をしていた際、書簡を通じて香峯子夫人に5つの質問をさせていただいたことがあります。時間の都合上、そのうち2つをご紹介します。

1つは、「池田先生が成功を収められた秘訣は何であるとお考えですか」と伺った際のご回答です。

「同じご質問を、アメリカの未来学者で、環境運動の母と謳われるヘイゼル・ヘンダーソン博士が主人になさったことがあります。主人は、間髪を容れず答えました。『まず、一心不乱に事に当たったからです』。特別な秘訣は何もなく、誠に素朴ですけれども、戸田先生の弟子として、

ただ『一心不乱』の一点を貫いてきたことを挙げたのです。私も、主人の行動を側で見えてきて、まったくその通りと思います」というお答えでした。

2つ目は、「牧口先生、戸田先生は、それぞれ、『価値論』、『生命論』を世に問われました。池田先生は『何論』を以て社会に貢献されてきたとお考えですか」と伺うと、「先般、創価学会婦人部が主催したフォーラムで、賈蕙萱先生に素晴らしいご講演をいただきましたこと、心から感謝申し上げます。参加者の方々からも、感動と喜びの声がたくさん届いております。ご講演の中で、賈先生が、この点に関しまして、『人間革命論』と位置づけてくださったことを、感銘深くお伺いいたしました。もとより、私は、専門的にお答えできる立場でもございませんが、婦人部の一人として、賈先生のご高見に心から共鳴し、賛同させていただきたいと思います」という回答をいただきました。

このように香峯子夫人は、きわめて謙虚な姿勢で、池田先生が生涯にわたり堅持し実践してきた理論を「人間革命論」であると受け止め、賛同されました。

言うまでもなく、香峯子夫人は、池田先生が人生の最大価値を創造する上で、多大な貢献を果たしてきました。時間の都合上、ここではいくつかの例を簡潔に紹介します。香峯子夫人は、池田先生が肺結核を患われていたことを知り、結婚後は食事面に細心の注意を払い、看護師兼栄養士として体調管理に尽力し、池田先生が健康で精力的に学会活動に打ち込めるよう支えてきました。

また、池田先生が10回にわたって中国を訪問した際には、いずれも香峯子夫人が同行し、その成功を陰で支える重要な役割を果たしました。池田先生が中国との交流を通じて、中日友好、平和、文化、教育の金橋を架けることができた背景には、香峯子夫人の貢献があったことは間違いありません。

香峯子夫人が家庭において多くの役割を担っていたことは、容易に理解できます。家事全般を引き受けるだけでなく、池田先生の事業にも計り知れない貢献をしてきました。創価学会婦人部が学会の大きな支柱であることは周知のとおりであり、香峯子夫人はその中でも極めて影響力のある中心的存在でした。時間のある折には、『香峯子抄』を手にとっていただければ、夫人が池田先生の人生における最大価値の創造をいかに支えてきたかについて、より深く理解することができますでしょう。

次にご紹介したいことは、池田先生が生涯をかけて、平和、文化、教育について貢献をされてきたことです。平和、文化、教育は、池田先生が「人間革命」を提唱し、実践する上で掲げた3つの柱です。多くの識者も、これについてかなりの数の卓越した論文、書物を発表しており、昨日の基調講演から、その重要性が分かります。そのため、ここで同じ内容を繰り返すつもりはありません。ただ私は、なぜ池田先生が「平和、文化、教育」に焦点を当て全力を傾けてこられたのか、そして常に初心を忘れず、人生の最大の価値を創造するために努力をされてこれ

た、それは一体なぜなのかと考えてきました。その答えは、やはり初心を忘れず、「人生の最大の価値を創造する」という一点にあったのではないかと考えています。

人は、良い教育を受けることにより、文化的素養を身につけ、平和に対してもより深い理解を持つようになります。そして、「平和と発展」の関係はとても重要です。ここで皆様にお尋ねしたいのは、「平和と発展はいかなる関係にあるのか」という点です。私の答えは、「平和と発展は、水と魚のような関係で、水がなければ魚は生きていくことはできない」ということです。平和な環境がなければ、いかなる事業の発展も望めないということは想像に難くありません。

「平和」の定義には諸説あり、統一された見解は存在していません。ご承知の通り、池田先生は若い頃、戦争のさなかを過ごされましたので、平和に対して非常に深い認識があり、これまでも多くの平和論、生存論に関する洞察を発表してられました。

池田先生が著名な方々で行った対談において語られる平和論は、私たちの理解をさらに深めてくれます。池田先生は、1990年10月24日、ノルウェー・オスロ大学の国際関係の第一人者であるヨハン・ガルトゥング教授と対談されました。ガルトゥング教授は、北欧平和学派のリーダーであり、「平和学の父」と称される方でした。その方の代表作は『平和論』です。彼は、物理的暴力および構造的暴力が存在しない状態こそが平和であると主張しています。ここで言う構造的暴力というのは、極度の貧困、飢餓、無秩序、無政府状態、政治的抑圧といった要因によって起こされるもので、計り知れない数の犠牲者を生み出します。また、自己実現の機会を奪われ、やむなく命を絶つ人々の存在も含まれます。こうした状況は、発展途上国において決して珍しいものではありません。大規模な戦争のように流血やテロ、衝撃的なニュース報道などが伴わなくとも、人々の生命を奪う暴力が存在するという点が、ガルトゥング教授の平和学の重要な柱となっています。池田先生との対話からわかるように、両者の平和に対する理解と定義に照らせば、平和の反対語は単なる戦争ではなく、物理的暴力および構造的暴力であることが浮き彫りになります。

話題を教育に移したいと思います。中国には「知恩図報（恩を知り、それに報いる）」という諺があります。私たちは池田先生に感謝をしなければいけないと思っております。池田先生は、中国の教育に対しても多大な貢献をされてきたからです。これまで10回にわたり中国を訪問され、中国の教育を多方面から支援されました。その中でも特に重要な功績は、北京大学、復旦大学、武漢大学などに数千冊にわたる日本語の書籍や資料を寄贈されたことです。当時を振り返ると、中国は外貨不足のため、外国語文献を十分に購入することができず、教職員や学生が日本の書物に触れる機会は極めて限られていました。

また、池田先生は、新中国から派遣された第一期国費留学生の保証人を務め、多くの人材育成に尽力されました。中国にも8つの希望小学校という支援学校を建設されています。これらの情報は、創価学会国際渉外局国際渉外第二部の梶浦伸作副部長から伺いました。池田先生は、平和、文化、教育という3つの大きな分野で大きな功績を残されました。人生の最大価値を創造する中

で、社会が直面する多くの問題解決のために尽力され、輝かしい歴史を刻まれたのであります。

次に、「創立の精神」が池田先生の人生と価値をいかに豊かにしてきたかについて述べたいと思います。創価学会会員間での会話の中で、しばしば「創立者」という言葉を耳にしますが、これは池田先生を指しています。このことから、池田先生が多くの機関を創立してきたことがわかります。

例えば、1951年4月20日に戸田先生と共に「聖教新聞」を創刊されました。この新聞は、創価学会の機関紙として重要な役割を果たしています。1962年1月27日には、「東洋哲学研究所」を創設しました。同研究所は世界中の法華経に関する資料をほぼ網羅的に収集し、深い研究を行っており、半年ごとに『東洋学術研究』という学術誌を発行しています。さらに、1963年10月18日には民主音楽協会を設立し、世界的に著名な芸術団体の演奏や公演を主催してきました。いずれの公演も満席となる盛況ぶりです。1964年11月17日には公明党を創立し、同党は自民党との連立政権を通じて、政策実現する機会を得ており、日本の政局において無視できない存在となっています。特に、公明党は中日国交正常化の促進にも、極めて重要な役割をはたしました。1983年11月3日には、東京富士美術館を創立し、著名な書画や美術品、貴重な文化財の展覧会を数多く開催し、世界文化交流の重要な拠点となっています。他にも多くの機関がありますが、池田先生が創られた諸機関は、非凡な成果をあげています。多くの人が不可能と考えることを可能にし、人生を実に豊かで、価値のあるものへと高めてこられました。

とりわけ、教育分野でも、尊敬に値するような教育機関を数多く創立されました。幼稚園から大学院までの一貫教育体制を築き、1968年4月には創価中学・高等学校を、1971年には創価大学を創立されました。創価大学は文部科学省からスーパーグローバル大学にも認定されています。さらに、2001年5月3日には、アメリカ創価大学も創立されました。

池田先生は、「私が生涯をかけて取り組む事業は教育です」と繰り返し語っておられ、教育を何よりも重視していたことがわかります。先師・牧口常三郎先生、恩師・戸田城聖先生の悲願である教育事業を完成させ、人生の価値の中に輝かしい歴史を築かれました。こちらは、創価学会と創価大学の写真であり、私自身も深い親しみを覚えます。

次に、池田先生が学会の指導部及び会員から支えられていたことについて触れたいと思います。

中国には「一人の英雄には三人の助けが不可欠で、一つの垣根にも三本の杭が必要である」という俗語があります。池田先生がいかに優れた人物であっても、学会の指導部や会員の一貫した支えなしには、これほどの偉業を成し遂げることはできなかったでしょう。これは、池田先生が人生最大の価値を創造する上でも極めて重要な要素であります。

池田先生が逝去されて間もなく、創価大学北京事務所の上野理恵女史が聖教新聞の複写を私に

送ってくれました。2023年11月19日から23日まで連続で掲載されていた池田先生の特集記事には、6つの主要な業績と非凡な歩み、そして会員による深い追悼の思いが綴られていました。私は、原田稔会長、池田博正主任副会長をはじめとする学会の指導部、会員、そしてご親族の皆様が、悲しみを力に変え、異体同心でいっそう団結し、池田先生の遺訓を胸に刻み、弟子として報恩の道を歩み続ける決意を固めていることを強く感じました。まさに、「衆志成城、勇往邁進」、すなわち多くの人々が団結し、共通の志のもとに力強く前進する姿であると言えるでしょう。この写真は、原田稔会長、池田博正主任副会長の写真です。こちらは、池田先生の弟子を代表する創価大学の田代康則理事長と鈴木将史学長であり、本日もご参加くださっています。この写真は、池田先生の指導のもと、創価学会の青年会員100名の中国訪問の写真です。池田先生が育ててこられた会員の姿を見るたびに、そのきめ細やかな行動と実践に、私自身も深い感動を覚えます。池田思想や学会を研究する立場の者にとっても、学ぶべき点は非常に多いと感じます。

まとめをさせていただきます。以上のように池田先生は、95年の生涯のうち76年にわたり創価学会のために寝食を忘れ働き続けてこられました。理論があり、実践があり、創作があり、著作があり、弟子があり、業績があり、功績があり、また後継者もいます。さらに内外に友人があり、世界中の学者が池田先生を研究しています。このように豊かな人生経験そのものが、人類に残された貴重な遺産であると言えるでしょう。池田先生の不撓不屈の精神と行動によって、創価学会は827万世帯へと発展し、1100か所以上の創価学会の会館が建設されました。恩師・戸田先生は生前、池田先生に「君の舞台は世界だよ」と語りかけました。1960年に会長就任後、半年も経たないうちに、この恩師の言葉のとおり、世界へと歩みだし、平和の旅を始めました。54の国と地域を訪問し、内外の大学や研究機関で32回にわたる講演を行い、著名な識者との対談集は80冊以上に及びます。

1975年1月26日には、グアムでSGI（創価学会インターナショナル）を発足させ、会長に就任されました。SGIは五大陸192か国・地域へと広がり、会員数は300万人を超える規模にまで拡大しました。日本の他の宗教団体には見られない成果です。1983年から2023年まで、池田先生が発表した「SGI平和提言」の冊子は40冊以上に及び、平和と友好のための活動により、世界的な平和賞を5回、国連からも2回表彰を受けています。生涯に授与された各種賞は1500を超え、名誉学術称号は400以上、名誉市民称号は800都市以上に及びます。また、世界61の大学や研究機関で池田先生を対象とした研究が行われています。それ以外にも多々ありますが、ここでは省略いたします。

池田先生の人生は、創価学会の究極の目標を生き生きと体現するものであり、池田大作先生が人生の最大価値を創造したと評価されることは、まさに名実ともにふさわしいものです。私たち

は池田先生を追悼するとともに、その生き方から学ぶべきでしょう。池田先生の人生は、「生榮没哀（せいえいぼつあい）」という言葉にふさわしい人物でした。これは、生前に多くの人々から敬愛され、逝去後も深く偲ばれることを意味します。私は池田先生について全てを知っているわけではありません。ただ、私の知り得た範囲だけを見ても、池田先生は創価学会の歴史に、きわめて多彩で輝かしい「池田大作時代」を築いたと言うに十分かと思えます。今後も創価学会のより輝かしい未来と人類社会のさらなる平和と発展のために努力していくべきではないかと思えます。私は、創価大学の客員教授に任命していただいております。そして、創価学会、創価大学の皆さまと私も頑張っていきたいと思えます。皆さん一緒に頑張ってください。

最後に、これは中国でも大変人気のある「中国結び」というリボンの飾りです。色々な意味が込められており、編み方も多様にあります。「団結」、「友好」、「平和」、「発展」という意味もあり、中国では様々な場所で使われていますし、自分で編んだりすることもできます。これは皆さまへの感謝を込めて、私自身が編んだものです。皆様の健康、長寿、そして平和と発展を祈念し、お贈りいたします。ご清聴、誠にありがとうございました。